

Title	道観関連資料の調査と研究：紀行文・宮観志・明代の地方志を中心に
Sub Title	Research of the resources concerning the Daoist abbey
Author	酒井, 規史(Sakai, Norifumi)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2020
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2019. )
JaLC DOI	
Abstract	<p>本研究の目的は、宋代から明代にかけての道観に関連する資料を収集・整理し、道観研究の基盤を形成することである。また、各地の道観の動向を把握し、道士の宗教活動を明らかにすることである。その目的を遂行するために、以下のような調査活動を行った。</p> <p>(1)文献調査 研究計画の通り、(1)宋代の文人による紀行文、(2)宮観志、(3)明代の地方志について重点的に調査を行った。同時に各種資料に収録される碑文の調査も行い、道観に関する資料を収集・整理した。また、関連する研究書・資料集なども購読し、今後の研究の基盤を形成するようにつとめた。</p> <p>(2)図書館における資料( 版本 ) 調査 都立中央図書館・宮内庁書陵部などに所蔵される資料を調査した。また、資料価値が高いと思われる版本( 明代の嘉慶版『茅山志』など ) については複写も行い、ほかの版本との比較を行った。</p> <p>(3)国際学会における学術発表 上述の資料調査による成果をもとに、二つの学会発表を行った。まず、2019年6月、『首届洞天福地研究与保护国际学术研讨会』( 於中華人民共和国・寧徳 ) において「宋代遊記中所見の洞天福地与道観」という題目で発表を行った。南宋時代の周必大・陸游などによる紀行文に見える、洞天福地( 道教の聖地 ) とそれに付随して建てられた道観についての記述を調査し、当時の道観の状況や道士の活動を明らかにしたものである。 続いて、2019年11月に『色目( 回回 ) 人与元代多元社会国际学术研讨会暨2019年中国元史研究会年会』( 於中華人民共和国・南京大學 ) において、「金元時代北方道教中的北宋道教之遺風」という題目で発表を行った。上述の発表が南宋時代の道教をあつかったものであったが、こちらは同時代の中国北方の道観と道士の活動をテーマにしている。碑文などの資料から、北宋時代の道教とそれに続く金元時代の道教の連続性を明らかにしたものである。</p> <p>The aim of my study was to focus on the resources concerning the Daoist Abbey (Daoguan) and to examine the institutions of Daoist Abbey and the activities of Daoist priest (Daoshi) in Song-Yuan-Ming China. The results of the study include (1) Researches of some resources in several libralies :Travel Journals,Records of Daoist Abbey (Gongguan zhi) and Topograhies(Difang zhi) ;( 2 ) the presentation in international conferences at Fujian and Nanjing(the People's Republic of China).For details,refer to my Japanese abstract.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2019000007-20190203">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2019000007-20190203</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	商学部	職名	准教授	補助額	300 (A) 千円
	氏名	酒井 規史	氏名 (英語)	SAKAI Norifumi		
研究課題 (日本語)						
道観関連資料の調査と研究—紀行文・宮観志・明代の地方志を中心に—						
研究課題 (英訳)						
Research of the resources concerning the Daoist Abbey						
1. 研究成果実績の概要						
<p>本研究の目的は、宋代から明代にかけての道観に関連する資料を収集・整理し、道観研究の基盤を形成することである。また、各地の道観の動向を把握し、道士の宗教活動を明らかにすることである。その目的を遂行するために、以下のような調査活動を行った。</p> <p>(1)文献調査 研究計画の通り、(1)宋代の文人による紀行文、(2)宮観志、(3)明代の地方志について重点的に調査を行った。同時に各種資料に収録される碑文の調査も行い、道観に関する資料を収集・整理した。また、関連する研究書・資料集なども購読し、今後の研究の基盤を形成するようにつとめた。</p> <p>(2)図書館における資料(版本)調査 都立中央図書館・宮内庁書陵部などに所蔵される資料を調査した。また、資料価値が高いと思われる版本(明代の嘉慶版『茅山志』など)については複写も行い、ほかの版本との比較を行った。</p> <p>(3)国際学会における学術発表 上述の資料調査による成果をもとに、二つの学会発表を行った。まず、2019年6月、『首届洞天福地研究与保護国際学術検討会』(於中華人民共和国・寧徳)において「宋代遊記中所見的洞天福地与道観」という題目で発表を行った。南宋時代の周必大・陸游などによる紀行文に見える、洞天福地(道教の聖地)とそれに付随して建てられた道観についての記述を調査し、当時の道観の状況や道士の活動を明らかにしたものである。 続いて、2019年11月に『色目(回回)人与元代多元社会国際学術検討会暨2019年中国元史研究会年会』(於中華人民共和国・南京大學)において、「金元時代北方道教中的北宋道教之遺風」という題目で発表を行った。上述の発表が南宋時代の道教をあつかったものであったが、こちらは同時代の中国北方の道観と道士の活動をテーマにしている。碑文などの資料から、北宋時代の道教とそれに続く金元時代の道教の連続性を明らかにしたものである。</p>						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
The aim of my study was to focus on the resources concerning the Daoist Abbey (Daoguan) and to examine the institutions of Daoist Abbey and the activities of Daoist priest (Daoshi) in Song-Yuan-Ming China. The results of the study include (1) Researches of some resources in several libraries :Travel Journals,Records of Daoist Abbey (Gongguan zhi) and Topographies(Difang zhi) ;(2) the presentation in international conferences at Fujian and Nanjing(the People's Republic of China).For details,refer to my Japanese abstract.						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
酒井規史	宋代遊記中所見的洞天福地与道観	首届洞天福地研究与保護国際学術検討会	2019年6月			
酒井規史	金元時代北方道教中的北宋道教之遺風	色目(回回)人与元代多元社会国際学術検討会暨2019年中国元史研究会年会	2019年11月			